

- (2) 「ひとり学習」を取り入れた理由  
 ①学習の個別化を図ることができる。  
 ②児童が読みのかまえを持ち、課題を追求する時間を確保できる。  
 ③遅れている児童が一層遅れる要因を取り除くための個別指導の場とすることができる。
- (3) 能力のある児童には、より質の高い学習をさせることも可能である。  
 「ひとり学習」をさせる留意点  
 ①学習課題を単純化、明確化し、児童一人一人のものにさせる。  
 ②課題追究の方法や手順を明らかにする。  
 ③個人の能力差に応じて課題追究の到達度をチェックし、助言、示唆を与える。  
 ④書く活動を重視し、学習の足跡が分かるノート作りをさせる。  
 ⑤文や語句を通して読みを深め、課題を追求するかまえをつくる。  
 ⑥「ひとり学習」を「相互学習」につなぐために、児童の「ひとり学習」の実態を的確に把握しておく。(チェックリストによる)  
 ⑦発問の再構成をする。
- (4) 実践例 六年 「最後の授業」

(学習内容・活動)

資料2 学び方の手立て

	学習課題の設定	ひとり学習	相互学習
低学年	略	略	略
中学年	略	1、学習課題をしっかりと確認させる。 2、解決の手順・方法をわからせる。	略
高学年	1、読みのめあてを設定させる。 ○初発の感想を発表させ、それをもとに何に感動し、何を学習したいのかまとめる。 2、個人の課題をつくらせる。 ○読みのめあてを追究するのに必要な課題は何か考えさせる。 3、共通課題を設定させる。 ○個人の課題を発表させる。 ○検討、取捨選択して決める。	3、じっくりと「ひとり学習」をさせる。 ○登場人物の行動、会話、情景や心情など必要な文や言葉を抜き書きさせる。 ○自分の考えやイメージを書きこませる。 (与える時間) 低学年 10~15分 中学年 15~20分 高学年 15~30分以上 (留意点) ○教師の制御(指示、説明、発問、確認など)を極力削減する。 ○個別指導に力を入れる。	1、ひとり学習で読み取ったことを発表させ、話し合わせる。 2、自分の考えと友達のを比べさせ、共感、反対、つけ加えの意見を出し合い、更に読み深めさせる。 3、各自に、ノートの加除修正をさせる。 ○発表のし方を身につけさせる。 ○教師の発問の精選、工夫に努力し、単に課題解決のみに陥らないようにする。 ○基礎、基本の指導や学び方の訓練も意図的、計画的に行う。

1 読みのめあてと学習課題及び学習方法の確認  
 ○課題の確認

フランクはなにを理解し、どう目覚めつつあるか。また、それはなにによってか。

2 ひとり学習を知る。  
 ○学習方法を知る。

2 ひとり学習をする。  
 ○課題を意識して黙読する。  
 ○読み取ったことを書きこむ。

3 相互学習をする。  
 ○ひとり学習の結果を発表し、話し合う。

○友だちの発表を聞き、自分の読み取りと比べる。  
 ○話し合って読みを深める。

・フランクはなにを理解し、どう目覚めているか。(そのわけは)最後の授業と知った時の気持ちは。

4 友だちの読み取り図によるまとめ方を見て、自分の学習の反省をする。

四、研究の成果と今後の課題

研究の成果

(1) 国語科の年間指導計画は、児童の主体的な学習活動ができるように、「ひとり学習」を重視したものを作成した。

